

真野北学区自主防犯推進協議会(滋賀県)



地域ぐるみで安心のまちづくり

「自分達の街は自分達で守る」地域に根ざした防犯活動

現在の体感治安は、未だ国民が安全と安心を実感できるまでに至っておらず、治安回復のためには、より一層の警察活動の充実と地域住民による自主防犯活動が求められており、そのニーズに応えられるよう、全国各地で自主防犯活動が推進されている。

そのような流れの中で、真野北学区では、「地域に根ざした防犯活動」が模索されていた。

1 「真野北学区」

真野北学区は、滋賀県大津市の北部、琵琶湖の西岸に位置する大手私鉄京阪電鉄が開発した大規模住宅地「びわ湖ローズタウン」の約六割を占める新興住宅地域で、町が開けて30余年である。

学区設立14年、戸数3,200戸、住民8,400余人で、ご多分に漏れず少子高齢化が進んでいる。(学区：小学校の通学区域)

2 「真野北学区自主防犯推進協議会」の設立

真野北学区では、従来、地域の振興、福祉、防犯、防災等について、各団体が個別に活動を展開していたため、自主防犯活動をはじめとした各種活動を総合的に展開することができず、かねてより懸案事項となっていた。

これを解消するとともに、防犯活動の強化を図る目的で、平成17年4月10日、「自分達の街は自分達で守る」、「住民全員参加」をスローガンに、学区内38団体を構成

団体とする「真野北学区自主防犯推進協議会」を発足した。

これにより、個別に活動を展開してきた各団体の調整を図り、効果的かつ効率的な自主防犯活動の推進が可能となるとともに、構成団体において、互いの活動への理解と認識が深まった。

また、真野北学区自主防犯推進協議会では、住民が一世帯当たり年間 100 円の会費を負担しており、住民全員で活動に参加するという意識を高めている。

3 「真野北青パトあんしん隊」の発足

真野北学区自主防犯推進協議会では、「真野北青パトあんしん隊」の発足を自主防犯活動の目玉と位置づけ、平成 17 年 7 月 23 日に同隊を発足した。

現在、青色回転灯装備車の数は 14 台、真野北青パトあんしん隊の隊員数は 32 名で、1 日に 2 台の青色回転灯装備車が地域のパトロールを行っている。

4 「真野北スクールあんしん隊」の発足

多くの子ども達は、下校時、一人になったところで犯罪の被害に遭っており、学校から枝分かれして一人、二人の少人数となって帰宅する子ども達の安全確保を目的として、「真野北スクールあんしん隊」は発足した。

この活動は、学校開校日全日にわたるため、大勢のボランティアを必要としている。

5 隣接学区との合同防犯活動の取り組み

防犯活動は、自らの学区内だけでなく、近隣学区と連携した広域防犯活動を推進することが重要である。

近隣学区での犯罪や非行等の情報については、警察からの迅速な情報提供も得にくいことから、各学区において把握した犯罪情報等を交換し合い、それぞれの防犯活動に活用している。

6 今後の課題

自主防犯活動は、継続させることが非常に重要である。当協議会も防犯意識の高い地域住民に支えられているが、十分な防犯活動参加者の確保には至っておらず、一層の啓発活動の必要性を実感している。

真野北学区自主防犯推進協議会（滋賀県）

河原：滋賀県大津市真野北学区自主防犯推進協議会事務局長の川原と申します。映像の製作、それからパワーポイントの操作は会計の鈴木が担当いたします。どうぞよろしくお願いをいたします。

真野北学区

滋賀県。琵琶湖がございます。琵琶湖の西岸には比叡山。それから、その北に連なりま
す比良山がございます。比叡山を越えますと京都でございます。この細長い南北に伸び
た地域が大津市でございます。大津市のこの北部、琵琶湖が一番くびれたところ。ここに
琵琶湖大橋がございます。この北西約2～3キロのところ、関西の私鉄大手、京阪電
鉄が開発いたしました琵琶湖ローズタウンという新興住宅地がございます。ここの約6割
がわたしどもの真野北学区でございます。その右側に小野学区とございます。後ほどご
説明を申し上げますが、この真野北学区と小野学区両方を含めまして琵琶湖ローズタウン
と称しております。



戸数が3,200、人口が8,400人の新興住宅地ござい
ます。町が開けて34～35年になると思います。学区が開
設されまして14年目でございます。ご多分に洩れず少
子高齢化が進んでおりまして、一時、小学校の児童数が
1,000人を遥かに超しておったのですが、現在367名と、
3分の1ぐらいに減っております。

学区と申しますのは、大津市の場合、小学校区を1
つの学区として呼んでおります。ですけれども、この地域
は、各団体、サークル活動が非常に活発に行われている
という地域でございます。

自主防犯というのがこれほどクローズアップされてきた背景というのは、何といたしま
しても治安の悪化ということが最大の要因であろうと思います。平成14年、先ほどもござい
ましたが、285万件という刑法犯の認知件数でありました。途方もない数字です。しかも、
平成8年から7年間、不名誉な記録更新が続いての285万件でございます。これはもう大
変だということで、平成15年9月、犯罪関係閣僚会議というのが行われまして、そのレポ
ートが警察庁から12月に発表されております。その間にいろいろな事件が起こっておりま
す。いろいろと全文では書いてございますけれども、3つの視点をこのレポートでは挙げら
れております。

「真野北学区自主防犯推進協議会」 の設立

1. 平成17年4月10日 設立総会開催
2. 学区内38団体で構成する協議会
3. 「大津市安全なまちづくり事業費」補助金の活用
4. 「真野北学区自治連合会」の助成
5. 自治会加入世帯よりの拠出金
6. 防犯に係る学区内各種団体間の横軸の構築

1つ目が、国民が自らの安全を守るための活動への支援。2つ目が、犯罪の生じにくい社会環境の整備。3つ目が、水際対策を初めとした各種犯罪対策ということですが、2つ目、3つ目はちょっと置きまして、自主防犯活動に関しましては1つ目が非常に重要だと思っております。この「国民が自らの安全を確保するための活動への

支援」に続きまして、何て書いてあるかといいますと、「良好な治安は、警察の活動によって保たれるものではない」となっております。それに続きます文章をかいつままで申し上げますと、自分のことは自分で、家族のことは家族で守ってください。そして、地域のことは地域で守ってください。それへの支援をいたしましょうということになっております。この15年のこういう出来事から各地に自主防犯活動というものがどんどん広がっていったわけでございます。警察、それから自主防犯活動が活発化することによって、犯罪件数は大いに減少してまいりました。その内容を見てみますと、窃盗とか空き巣とか自転車盗とかいう犯罪が大いに減りましたのですけども、殺人、強盗傷害というような凶悪犯罪は一向に減る気配がございません。こういうような流れの中で、わたしども真野北学区自主防犯推進協議会は設立をされ、そして活動をしてまいっております。

「真野北学区自主防犯推進協議会」の設立

わたしども真野北学区では、地域振興、福祉、防犯、防災など個別に各団体が活発に展開しております関係で、総合的な活動というものがずっと行われずにきました。これは地域にとっても非常に課題でございました。そうした中、平成16年12月、道路運送車両法の改定によりまして、青色回転灯を装着してのパトロールというものが、一定の条件下で民間の防犯団体にも許可されるということになりました。これにまず最初に飛び付いたのが、大津市の山中比叡平という学区でございます。この地域はちょっと条件的な面もありましたのですが、電光石火、1月の15日に、この青パト隊の出発式を迎えております。これが新聞記事に outcome して、これが真野北学区の自治連合会の幹部たちに非常にインパクトを与えたわけです。この課題の克服に対して、まずこれを導入しよう。そして、防犯活動の展開をこれによってさらに推し進めていこうということになりまして、準備委員会発足へ向けて進んでいったのでございます。

次に、推進協議会の設立のことを申し上げます。

大変あわただしい中でしたけども、平成 17 年 4 月 10 日、「自分たちの街は自分たちで守る。住民全員参加」というスローガンのもとに、真野北学区内のすべての団体、38 団体が加わりました「真野北学区自主防犯推進協議会」が設立をされました。この設立のバックアップとなったのは、「大津市安全な町づくり事業費」という補助金でございまして、先ほど、140 万とか大きな数字が出ておりましたが、わたしどもは、50 万円をちょうだいしております。それから、自治連合会からの助成。そして、住民全員参加というものをわたしどもはうたっております、その証しとして、自治会に加盟の 1 世帯当たり年間 100 円の会費を拠出して頂いたというところでございます。

実は、発足をいたしまして、ほどなく防犯関係団体を全部集めまして、どういう活動をしているのか、お互いに認識し合おうという会議を持ちました。もしいろいろな問題点があれば、それを改善していこうということになりましたら、早速出てまいりました。

登校時の朝の立ち番でございます。交通安全協会、それから、小学校の PTA、子ども安全リーダーが、毎月 1 日と 15 日に立っているのですが、何しろ 3 団体が一遍に同じような場所に立つわけですから、立つ位置の確保必死になっている。こんなばかなことすぐやめましょうということで、交通安全協会は 1 日、15 日、PTA は 10 日と 25 日、子ども安全リーダーは 5 日と 20 日というふうに分けました。一挙に 3 倍になりまして、立つ位置も全然心配せずに立てるようになったというところでございます。



「真野北青パトあんしん隊」の発足

続きまして、青色回転灯装着車に対する問題です。これは、自主防犯団体の設立の目玉でございまして、これのために設立をしたと言っても過言ではないほどのことでございます。現在は非常に手続上も楽になりましたですけども、当初は非常に大変でございました。いろいろと事務手続の遅れ等々がありまして、わたしども 14 台を、これ、第 1 期のつもりだったんですけど、実際はそれ以上増やすのは不可能ということになりまして 14 台です。

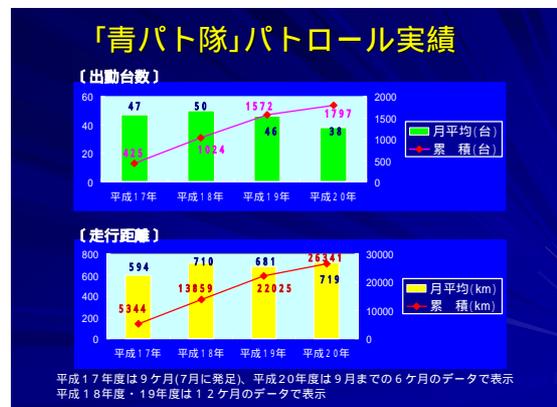
この 14 台の提供はすべて個人の所有車を提供していただいて青パトに使っているわけです。やはり推進協議会を住民全員でやっさいこうということで、14 台の提供は、非常にスムーズにいきました。どうにかこうにか約 3 カ月後の 7 月 23 日に、「真野北青パトあんしん隊」の発足を見ることになり、出発式を行いました。正式名称が「真野北青パトあんしん隊」。愛称としては「青パト隊」。子どもたちは「青パトさん」とかね、「青パト」とかそ

という形で呼んでくれております。パトロール車 14 台。これは、先ほど申しましたように、すべて個人所有車の提供でございます。隊員は現在 32 名。回転灯数は 14 基、全車に配付しております。パトロール区域は、当初は真野北学区だけでしたが、現在はローズタウン全域。いわゆる、先ほどありました小野学区も含めたパトロール区域を持っておりまして、1日に2台以上出していこうということと、それから、1台当たり週1回、1時間程度を目標にやっております。

このパトロール時間の区分ですけれども、わたしどもは、A、B、C、Dの4パターンに分けております。Aは午前、Bは午後、Cは夜間、Dは深夜ということでございます。深夜パトロールは、わたしどもの地域では毎月最終土曜日、それから、夏休みの毎週土曜日に行っておりまして、これへの支援を青パトでやっております。拡声器とか青色指示棒なんかも付けて使っております。

それから、出動台数。これは最初の17年の7月からの出動台数ですが、この9月までの時点で約1,800台。それから、走行距離が2万6,341kmという形で、累計でございます。

それから、毎月、パトロール予定表というものを作っておりまして、A、B、Cに分けた形で大体の指示をして、これを尊重して走っていただいております。これ以外にも下校パトロール関係者にもこれをまいておりまして、Bの時間帯の人はこれを参考に子どもたちの安全を見るという形でございます。



それから、乗車ごとに日誌を義務付けておりまして、日誌に書いていただきましたものを毎月集計いたしまして、報告書を作っております。

この日常活動以外にもいろんなイベント等々に出向いております。例えば、10月ですと、全国地域安全運動にも出ております。

「真野北スクールあんしん隊」の発足

スクールあんしん隊といいますのは、下校時、枝分かれした後でも子どもたちを安全に家まで送り届けよう、また見届けようという形で発足をしました。名称は「真野北スクールあんしん隊」。一般には「スクールあんしん隊」と申しております。課題としましては、活動可能なボランティアの継続的な確保がありまして、これはどこも課題としてはあると思いますけれども、我々も苦勞をしております。この活動は、寒暖晴雨に関係なく、開校日毎日でございます。ネックプレートというのですか、これと腕章だけという、簡素とい

うか粗末な装備だったのですが、何とかそれを改善しようということで、去年、滋賀県の共同募金会に申請をいたしまして、補助を受けまして、私が着ているような衣装を作りました。そして、今年の第2次募集で、20年9月に新しく補助を受け、衣装を追加購入いたしました。最終的に50人にはしたいと思っております。それとは別に、PTAが同規模またはそれ以上で連携をしながら、子どもたちの見守り活動をやっているというところがございます。

隣接学区との広域防犯活動の取組み

自分のところの学区だけが安全だったらいいというのでは決してないわけですし、これはやはり隣接の学区との広範な防犯活動というのが非常に重要だと我々は考えております。我々は同じ住環境にあります琵琶湖口ローズタウン内の小野学区と手を組むことにしました。とりあえずはこことまずやってみようということではじめたのです。この小野学区というのは、平成18年の3月までの大合併までは滋賀町というふうに、我々大津市とは行政を異にしておりまして、なかなか考え方とかいろんなものがうまく合わなかったのですが、所轄の警察にその仲介をうまく申し入れましたところ、3者による協議をいたしまして、広域防犯に対する必要性というのをお互いに認識をいたしまして、去年の10月の全国地域安全運動から共同での活動をいたしました。そのときは、警察署長のあいさつを含めたセレモニーをやっております。それから、駅前で啓発チラシ等を配ったり、青パト隊を両学区に乗り入れてやっております。この当時まだ小野学区には青パトはありませんでしたけれども、わたしどものほうが乗り入れをいたしまして防犯活動を展開いたしました。現在は2台、この9月に導入をしております。



さて、わたしども自主防犯推進協議会が設立をいたしまして、どんな成果があったのかというのをちょっとまとめてみました。まず、自主防犯活動の飛躍的な拡大が図られたということでございまして、17年の4月には自主防犯推進協議会が発足。それから、7月には青パト隊が発足いたしました。それから、18年の9月にスクールあんしん隊の発足を見ておりますし、19年の9月には広域防犯への取り組みということをやっております。これはボランティア隊員の努力の結果です。それから、各種団体の支援などによっておのおのの活動が間断なく続けられているというところが特色であろうと思います。

また、地域住民、行政機関とか警察等の当局から高い評価をいただき、わたしどもの活



動をぜひ紹介してくれということで、滋賀県内外からわたしどもの活動の紹介に歩いております。

関係団体との連携が強化されたということについては、先ほどの朝の立ち番が強化されたということや、下校時の見守りが非常にスムーズになったというところがございまして、地域住民の防犯意識が非常に高く

なって、我々が立ち番中とかパトロール中の時に会釈したり手を振ってくれたりということが非常に多くなっております。

それから、行政や警察との連携が非常に図られるようになって、いろんな情報交換もかなり容易になってきたというところがございます。

また、先ほど言いました、広域防犯への

取り組み。これによって、警察からはなかなか出てこない他の地域の情報が地域同士で交わされるようになってきたというところもございまして。

こういう活動が評価されまして、「なくそう犯罪、滋賀安全なまちづくり」の大賞を平成18年に受けることができました。これは非常に我々にとっては励みでございました。

今後の課題

今後の課題といたしまして、これも防犯ボランティアの確保・育成ということが非常に大事であるということ。それから、活動の維持・継続。これはモチベーションを落さないでやっていくということが非常に大事だと思っております。

今後も、地域の安全・安心のために活動してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。どうもご清聴ありがとうございました。

司会：どうもありがとうございました。

青パトの活動を中心に多くの団体をうまくコーディネートしながら活動していただいていると思います。

それでは、ただいまの発表につきまして何かご質問等ありましたらお願いいたします。

「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり大賞 受賞



平成18年度「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり県民大会
平成18年10月7日 野洲文化ホール

：2点ほどお教えいただきたいのですが、青パトあんしん隊のニュースの31号ということは、毎月出されているのですか。それから、リレー随筆については、これはリレーですから毎月、何らかの会長さんと責任者の方が当番でやっておられるのですか。2点目として、青パト隊につきまして、わたしどもも車両を10台、20名で運行しております。皆さんから会費を100円いただいているということですが、青パト代の装備品は100円でも何とか間に合うでしょうけども、燃料費等、大変難しいのではないのでしょうか。



河原：青パトあんしん隊ニュースの件から申し上げますと、これは平成18年の4月からスタートをいたしました。これは毎月出しております。リレー随筆につきましては、順番にいろいろな方をお願いに回っております。結構大変なんですけども、皆さん気持ちよくご協力をいただいておりますので、今のところは何とか続けております。今のところ、比較的責任の重い方が多いんですけども、会員にまで広めていきたいと思っております。

それから、燃料費の件でございますが、今現在は自治連からの補助金5万円、大津市の安全なまちづくり条例の補助金10万円、それから、全所帯から100円の会費を頂いております。燃料費はそこから捻出しております。燃料費につきましては、とにかくリッターで10キロ走るといって形にしておりまして、燃料は、一番安いところで給油しています。ですから、ちょっと大きい車の方はとてもペイしないし、低速で走りますから、非常に燃費効率は悪いと思いますけども、そういう細かいこと言い出しますとこういうことはできないと思います。そういうことはきちっと何らかの形で、地域で面倒を見て、隊員たちは気持ちよく活動を続けていただいているというのが現状でございます。

：青パトについては、トラブルに遭遇された場合の対応の研修をなさっておりますか。また、自動車及び隊員は災難に遭った場合の保険に入っていますか。

河原：1番目の件に関しましては、そういう形での講習等々は実際行っておりません。ただ、いろいろなことに遭遇いたしますので、そのたびに日誌で上がってくるのは事実でございます。この辺、統括してきちとしたマニュアルにしたいとは思っていますが、日常なかなかそこまで手が回らない現状でございます。

それから、保険の件でございますが、青パトに関しましての車に対する保険は、車は任意保険に入っており、その保険内でカバーするというのが前提でございます。

また、保険は警察からものと、スクールガードという文科省のものがございます。文科省のものは小学校の校長からの依頼が当初来ていたのですが、真野北学区におきましては、このために別組織をつくるということは一切できない状況でした。ただし、今活動している防犯関係者はすべてイコール・スクールガードであるという認識のもとに、登録をしております。これにつきましては県が個人に保険をかけてくれておりますので、それを活用させていただいているというのが現状でございます。



：負担の割合ですが、個人車両 14 台で 32 名ということで、大ざっぱに 1 日 2 台動くと、1 日 1 台に 2 名ずつ付いたとして 4 名、1 週間に一遍ぐらいの割合で今の 32 名の方が参加されてるといふふうに考えてよろしいのですか。

河原：車提供隊員というのと同乗隊員というふうに分けておりまして、車提供隊員は当然のことながら 14 台ですから 14 名でございます。

それ以外は同乗隊員というふうにしております。同乗隊員は、用事がありますとなかなか同乗できないということがございますので、複数つくって対応ができるようにしております。それから、内規で、隊員が 1 人乗っておれば、隊員以外の者がそれに同乗しても、構わないということにしていま

す。

